

12月

校長室だより

平成27年12月 大阪市立淀川中学校 校長 二上和正

職業講話



1・2年生の生徒を対象に職業講話をを行いました。警察官、阪急電鉄、看護師、消防士、自衛隊、美容師、添乗員、新聞社、獣医、理学療法士、介護士、医師、保育士、船舶関係、それぞれのお仕事をされておられる方々を講師としてお招きし、2時間ずつ授業を担当していただきました。

映像を用いたりしながら仕事内容、やりがいや苦労、なぜその仕事に就いたのかなどを話していただきました。

体を動かすことが好きな人、考えることが好きな人、ものを作ることが好きな人、自然とともに過ごすことが好きな人、自分はどのタイプかな?

仕事選びは自分を知ることから始まります。

中学生の時期は社会に出るための準備の時期です。たくさんの経験をし、自己を見つめ、自分が得意とすることを見つけてほしいと思います。そして、社会との関わりを大切にする心を培ってほしいと思います。学校では地域の皆様とのつながりを大切にし、さらに体験を重視した取り組みを進めたいと考えています。ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

人権教育講演会

土曜授業の一環として、広島で被爆され、現在は大阪で生活されている飯田清和さんをお招きし、本校体育館で講演していただきました。PTA成人人権委員会の皆様にも呼びかけていただき、保護者の皆様にも参加していただきました。飯田さんはあまりにもつらい体験のため、長い間被爆体験を一切語ることは無かったそうです。しかし、あるとき広島、長崎の出来事が過去のものとなり日々忘れられていく現実を知り、語り部として生きることを決心されました。

3年生は6月に修学旅行で原爆資料館に行きました。戦後50年以上が経過した後に誕生した生徒たちですが、ほとんどの生徒たちが目を皿のようにして展示物や説明を読んでいました。知らなかつたことを初めて知った、そんな驚きの眼差しがとても印象的でした。

飯田さんは自分の経験を決して飾らず、ありのままに語ることを心がけているとおっしゃっていました。原爆資料館では、被爆された人々の姿や町の様子を知ることはできますが、そこに生きた人たちの生き様を知ることはできません。被爆した幼い飯田さんの逃げ惑う迫真のお話に生徒たちは息をのんで聞き入っていました。“あくびをするものは一人もなく、全ての視線が自分を見つめている。”生徒たちの真剣な視線を感じたと飯田さんは語っておられました。

今を知るために歴史に学ぶこと、未来を切り開くためには今を知ることがとても大切です。生徒たちにはいつまでも学び続ける人であってほしいと思います。

都島区中学校道徳教育研修会



11月5日(木)本校で道徳の研究授業と研究討議を行いました。当日は都島区の各中学校の教員にも参加していただきました。1年生の各クラスで「山ぞくと女の子」という読み物教材を用い担任が授業を行いました。

人を区別せず、誰に対しても優しく思いやりの心を持って接する女の子。その家に押し入ったやりたい放題の山ぞくが、女の子の心からのもてなしを受け、自分の生き方を見つめ直すお話です。生徒たちは様々な意見を発表し、また他者の意見を聞き、自らの考えをさらに深めます。他の教科のように答えを求めることが目標ではありません。

文部科学省の学習指導要領では、道徳教育の目標を「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」と記しています。道徳教育は全ての教科で行われるもので、その教科の一つである「道徳」の授業はその要としての教科になります。平成30年度より小学校で、31年度より中学校で検定教科書を用い“特別の教科”道徳として週1時間の授業が本格実施となります。そのための準備として教員のための研修が全市で進められています。

☆☆☆12月の主な行事☆☆☆

4日(金)1・2年生校外学習 14日(月)～18日(金)3年進路懇談会
16日(水)～22日(火)<土日除く>1・2年期末懇談 25日(金)終業式

